

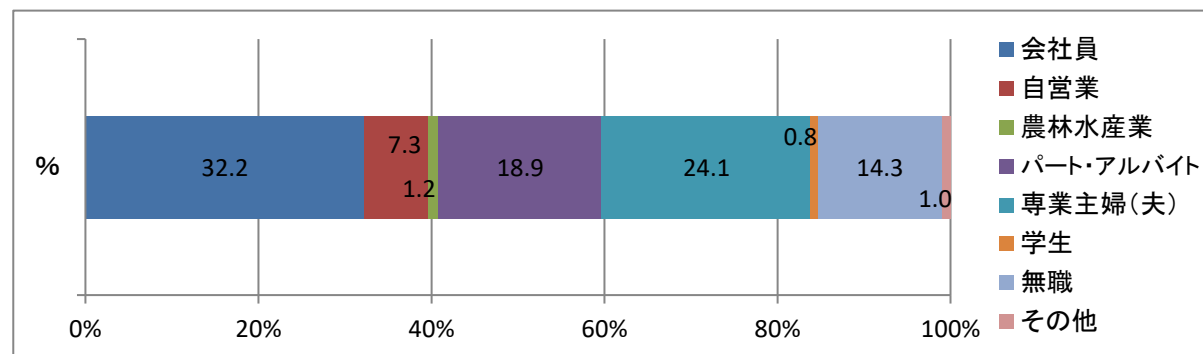
市民公益活動について

- 調査期間 平成30年2月1日～平成30年2月13日
- 調査の趣旨 市民公益活動について、皆様のご意見をお聞きます。
- 対象者数 607 人(平成30年2月1日現在)
- 回答者数 481 人
- 回答率 79.2 %

(図および表中の比率は、少数点第2位を四捨五入して表示しています。したがって、内訳を合計しても100%に合致しない場合があります。)

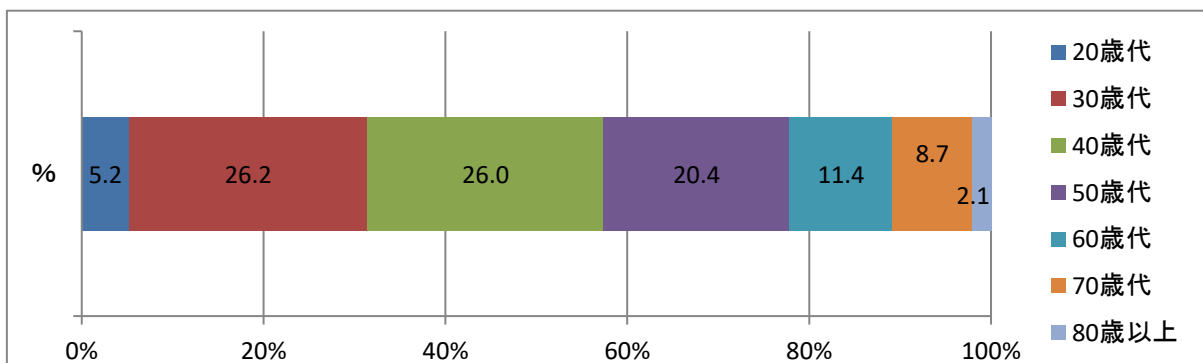
【職業】

内訳	人数	%
会社員	155	32.2
自営業	35	7.3
農林水産業	6	1.2
パート・アルバイト	91	18.9
専業主婦(夫)	116	24.1
学生	4	0.8
無職	69	14.3
その他	5	1.0
合計	481	99.8



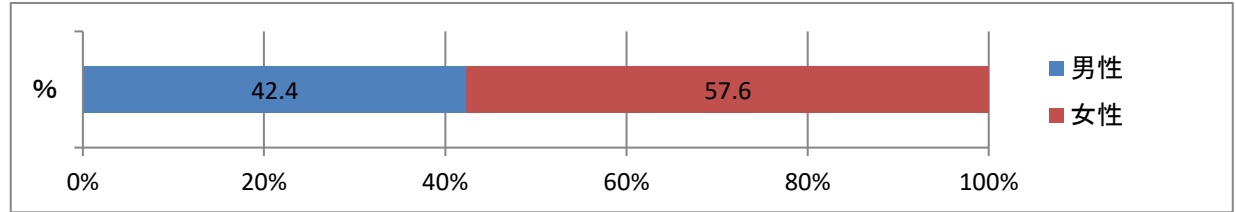
【年齢】

内訳	人数	%
10歳代	0	0
20歳代	25	5.2
30歳代	126	26.2
40歳代	125	26.0
50歳代	98	20.4
60歳代	55	11.4
70歳代	42	8.7
80歳以上	10	2.1
合計	481	100.0



【性別】

内訳	人数	%
男性	204	42.4
女性	277	57.6
合計	481	100.0



【導入】

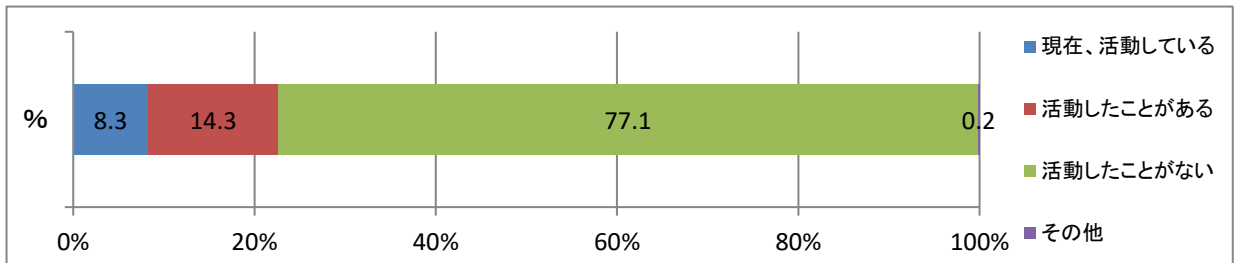
市民協働推進課では、NPOやボランティアの支援及び協働の推進に関する事務を行っています。市民の皆様の「市民公益活動」に対する理解度や経験度を把握し、推進に役立てるために「市民公益活動」についてお聞きします。

※「市民公益活動」とは、NPO活動やボランティア活動等のように、市民が自発的に行う公益的で非営利の活動とします。

※「協働」とは、公益という共通の目的のもとに、行政や市民(市民公益活動団体等)が互いの立場を認めながら、対等な関係で連携・協力し、共通課題の解決に当たる取り組みです。

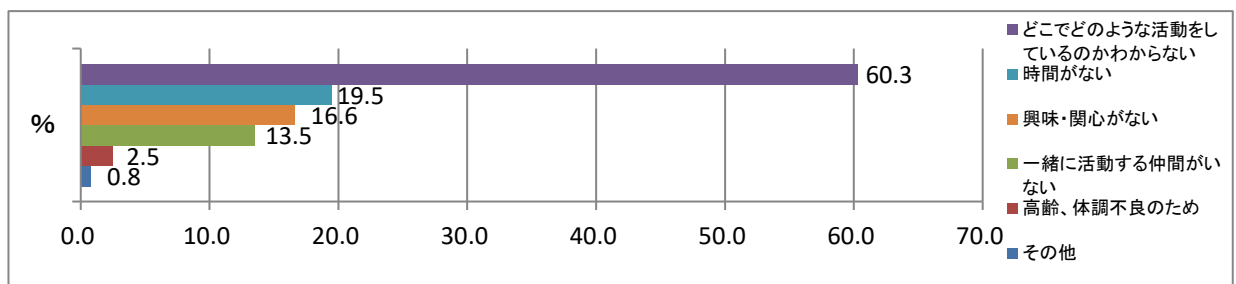
【問1】あなたは、「市民公益活動」を行った経験はありますか？

内訳	人数	%
現在、活動している	40	8.3
活動したことがある	69	14.3
活動したことがない	371	77.1
その他	1	0.2
合計	481	99.9



【問1-2】問1で「活動したことがない」と回答した方にお聞きします。活動されない理由は何ですか？ 該当者371人

内訳	人数	%
どこでどのような活動をしているのかわからない	290	60.3
時間がない	94	19.5
興味・関心がない	80	16.6
一緒に活動する仲間がいない	65	13.5
高齢、体調不良のため	12	2.5
その他	4	0.8

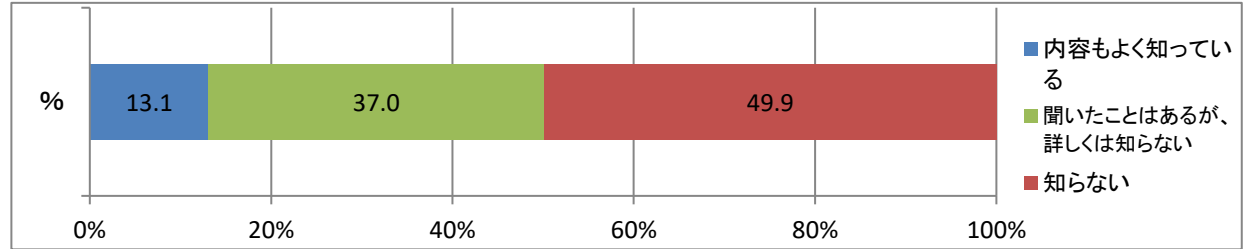


【問1-3】「その他」と回答された方は、詳しくご記入ください。

子供が小さいので自由に動けない。他1名
老母、孫の世話等で忙しい。
仕事上で各NPO団体の活動と関わることもある。

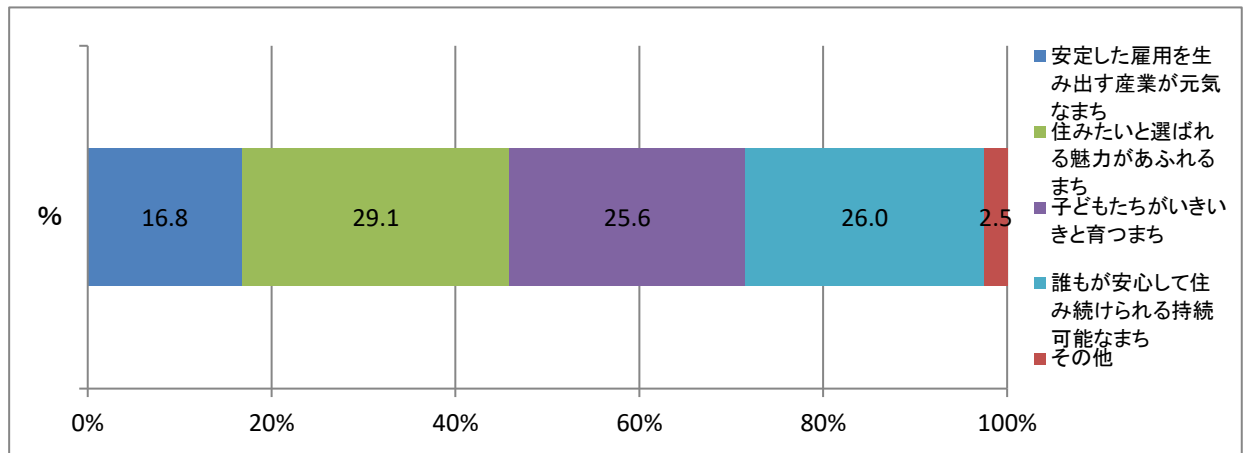
【問2】あなたは、「協働」という言葉を知っていますか？

内訳	人数	%
内容もよく知っている	63	13.1
聞いたことはあるが、詳しくは知らない	178	37.0
知らない	240	49.9
合計	481	100.0



【問3】和歌山市のまちづくりの方向性を示す『第5次和歌山市長期総合計画』において、行政運営の基本方針の一つとして「多様な主体との協働・連携」を挙げています。あなたが特に行政と協働してみたいと思う分野は何ですか？各分野は『第5次和歌山市長期総合計画』に挙げている4つの分野別目標です。()は主要担当部。

内訳	人数	%
安定した雇用を生み出す産業が元気なまち(産業部・農林水産部・観光国際部 等)	81	16.8
住みたいと選ばれる魅力があふれるまち(都市計画部・環境部・生涯学習部 等)	140	29.1
子どもたちがいきいきと育つまち(学校教育部・子ども未来部 等)	123	25.6
誰もが安心して住み続けられる持続可能なまち(道路部・社会福祉部・市民部・消防局 等)	125	26.0
その他	12	2.5
合計	481	100.0



【問3-1】「その他」と回答された方は、詳しくご記入ください。

よくわからない。他1名

興味なし。他1名

協働の中身について、防災にも力を入れてもらいたい。大きな地震・津波に襲われたら教育や観光どころではないでしょう。

仕事の関係で紀の川市では観光協会に参加しているのですが、ボランティア活動や広報活動はしています。和歌山市では知人が活動していることを応援している程度ですが、和歌山市に魅力を感じられる活動があまりないと言うより興味が湧いてきません。

給水下水事業を行政と協働する。和歌山市民国民に最低限施さなければならない給水事業、下水事業の成果が他の都道府県に比べて、明らかに劣っているため。

年に数回、ボランティアサロンの会議室・印刷等の貸与を受けていますが、もっと拡充して欲しい。和歌山市の街づくりを行政のみで行うのではなく、市民のNPO諸団体の活動と一層提携する事を考えて欲しい。

仕事や生活において、ストレスのない社会づくり

【問4】 市民公益活動について、ご意見がありましたらお聞かせください。

子育てに素晴らしい街になりますように。

初めて聞きました。

みんなが参加出来やすい仕組み作り、啓発をよろしくお願い致します。

市側も積極的に提案を受け入れてほしい。

和歌山市少年少女発明クラブ、和歌山市おもちゃ病院を支援しています。

市民の意思を頼るより、市民が自ら協働してみたいと思えるような活気に溢れた和歌山市のために市政をしていただきたいです。

あらたに構えて市民公益活動を展開するより、従来からある自治会活動、婦人会活動、老人会活動、自主防災組織を、もっと交流のある開かれたものに改革して、市民生活の根幹と位置づけして、ダイナミックに展開するべきである。特に、地域では、自治会とかけ離れたコミュニティ活動はナンセンスである。下手に市民公益活動を展開すると、個人レベルでは、熱心な一部の人だけに10個以上の肩書がつき、その他の人は無関心無関係という、地域としてまったく魅力のない状況が生まれてしまう恐れがある。

和歌山市は急速な高齢化のために空家問題や交通難民問題などが顕在化しています。もっと市民の知恵を借りて30年先、50年先を考えた街づくりに重点を置いた政策をしてほしいと思います。

よく何の活動かわからないです。

和歌山市が住みやすい明るい街に行政のみならず市民も協力していくべきだと思います。

まちづくりは幅広い活動であり。問3の分野回答を1分野に絞っているのはおかしい。改められたし。

県内の他地域や県外に出かけたときに、街が整備されていたり、立派な公園や公共施設があるととても羨ましく思います。正直、和歌山市は住みにくいし魅力も低いと思います。そういう点で良い街にしていくことには興味があります。

自然と産業、両方がある街づくりをお願いします。

市民公益活動についての記事や募集を、ニュース和歌山等の紙面に掲載してはどうでしょう。

具体的な内容を例示してもらわなければ、理解できない。

悪くはないと思う。しかし、当県は男女の潜在的格差があり(議員数などの要職において女性の数が少ない)外目には男女間で差がないように見えて内実はそうでない。例えば、子供に対しても、女子よりも男子に高学歴を付けたがるし、女性は結婚するから仕事で要職に就かなくても良いとの「いつの時代?」と言いたくなるような考え方が横行していて眼を覆いたくなる。そういう街では市民公益活動よりももっと大切な論点や観点があるのではないだろうかと感じている。

特定の方達で構成され活動内容も広く行き渡ってない様に思いますが。私だけでしょうか。今迄色々な方々に助けられたので、すこしでもお返し出来ればと思います。

市には投資する金が少ないのはわかっている。私のような年寄りでも環境には取り組みはできる。リタイヤの人にもっと活動を訴えるべきだと思うが、ゴミ拾いでもいい。公園の掃除、河川の不法投棄の監視

市民の理解や意識改革が進まなければ活動が中々推進出来ないと思います。市政の基本方針ポイント等全く存じ上げませんので、希望者には具体的な内容や活動の参加依頼等をメール連絡して欲しいですね。私たちには何をしているのか見えません。

和歌山市が考える「協働」のイメージを、広報誌などで知る機会がありません。「市民公益活動」についても、漠然と広い括りなので、なかなかワガコ化しにくい。そこで、実践者や企業、NPOなど多様な主体と、和歌山市役所などの公が、協働しているとりくみを、市のサイトやメディアを通じて知らせると、市民にとってイメージしやすいと思う。

市民公益活動は、大切なものだと思います。和歌山でもより活性化させていただきたいです。

行政側に市民と本気で協働するという熱意が感じられない。ボランティアのことを考えるときは同時に金銭のことも考えないとダメ。表裏一体。役人はお金を稼いだことがないからダメ。もう絶望的にダメ。協働したいなら、担当の役人全員が一度民間で研修してから出ないとダメ。でないとしたらただのタダ働きが欲しいだけになってしまう。特に和歌山市役所の役人は民間のことを知ったかぶりというか耳年増が多い。面倒くさい。頼むから協働したいなら、民間で研修してからにして欲しい。お願い。

全国的にそういった動きが目立ちますが、補助金目当ての悪質なビジネスもあるようです。大切な税金なので、その時だけのプロジェクトで終わってしまう意味のないものもあるようです。それよりも活動されている優良なNPOや個人でも応援してあげたいと思います。行政は行政に専念し、議員さんは市民、県民の声を届けていただきたいです。

街づくりは、都市計画と同じく短期的なものではなくて、中長期にわたり計画するものです。それを誰がどれだけの市民に浸透させていく事が大変重要なものと理解しています。既にある自治会では運営は難しいと考えます。

今は自分の生活にいっぱいいっぱい余裕がありません。人生にゆとりが出来たら自分に出来ることをしたいと思います。

もう少し積極的にアピールしたほうが良い。身近なことで参加したい方がいても分らない。

広報などで案内してもらえるといいと思います。

和歌山市にはどの分野においても、継続する文化が無い。

フルタイムで働き、家に帰れば主婦業、休みの日も一日中主婦業に追われているような自分でもできることはあるのでしょうか。個人的には語学ができる、楽器演奏ができるのでそのあたりで何かのお役に立てればとは思いますが。

恥ずかしいことだが、市民公益活動のことは全く知らない。色々な面で行政と協働し、充実した街づくりができればよいと思う。

一言で言うと「ぬるい」何にしても陸の孤島で暮しているから、自己満足のレベルが低すぎる。もっとテキパキしようよ！もっと他県を見て、素晴らしいと思うことは、取り入れようよ。議員の視察なんていうのと違い夜の宴を楽しみに税金をパーと使うのでは無く、未来ある若者に見学して見識を広げて貰いたいです。

市内のボランティア活動の後継ぎがなくて困ってる。市として、後継者の沢山出るように啓蒙運動をしてほしい。又各地区の老人会に適合者が沢山入会するように、これも市政月報等でPRしてもらいたい。

市民公益活動する余裕があれば、その余裕を行政の国民市民に対する、ナショナルミニマムに施してほしい。

活動に参加をしていけませんので、どのような事をされているのかが、分かりません。

産業と行政、学府がともに協力を連携をして地方を盛り上げていかないと益々都市部へ人口が流出してしまう。

何か貢献したいと思います。

年に数回、ボランティアサロンの会議室・印刷等の貸与を受けていますが、もっと拡充して欲しい。和歌山市の街づくりを行政のみで行うのではなく、市民のNPO諸団体の活動と一層提携する事を考えて欲しい。

現在、消防団にて活動中。さらにいろいろな活動を行っていきたくのでPR活動お願いいたします。

子育てにやさしい町になってほしい。

市民公益活動といわれても、あまりイメージがわいてこない。

定年退職してから何かボランティア活動をしなければと常々考えているが、具体的に行動を起こすまでに至っていない。できれば働いていた時の経験を生かすことのできるものがよいが、どのような活動があるかわからないのが現状です。公益活動内容のわかりやすい情報を発信してほしいと思っている。

活動について知りえる機会を作ってください。

高齢者のもつスキルや人脈を使いながら若い人が力を貸す、そんなサイクルができれば新しい人と人のつながりができると思います。

もっと、様々な媒体を介して、市民に活動内容を周知してもらいたい。

もっと私達にも分かるように大々的に宣伝などをして欲しいです。

子ども達が、いきいきと育つまちになりますように。期待しています！

機会があれば参加してみたいと思っても、いつどんな活動があるのかよくわからないし、あっても知り合いがいなくて入っていきづらいようなイメージがあります。現在市のスポーツ団体の会長として活動、運営に関わっている為時間に余裕がない。時間があればやりたいと思うがいずれにしても市民の認知度が乏しいと思う。一般市民への認知度が低いと感じます。定期的、体系的な情報発信を期待します。

市民公益活動について市報などで大きく宣伝してもらったらいと思います。専業主婦で時間が空いて何か和歌山市のためにしたいと思っても活動の範囲や活動してるグループがわからないと活動しづらい。和歌山市のホームページでもわかりやすく表示してもらえたら。

余り内容などが詳しくわからないから答え様がない。みんなにもっと分かりやすさ詳しく必要だと思う。

無知で申し訳ないのですが、まず良く判らないです。言葉が難しい印象なので、もう少し柔らかい言葉に置き換えてみては如何でしょうか？あと、推進したいのであれば、もっと啓発活動などしないと、私は全然知りませんでした。

活動が盛んになるほど県市が本来するべき公務を怠ける懸念を払拭できない。

専門家でなくても参加できるものがあるのならもっと大々的に宣伝してほしい。また受け入れ側が市民を歓迎できるのかどうかも心配。

私は介護で活動出来ていませんが、主人は大いに活動しています。私も関心は有ります。

いつ、どんな活動をしているのか知らない。もっと参加しやすければするかもしれない。

公務員の退職の受け皿組織ではダメ、民間人の導入。

いいかげんなNPO団体を知っているので監視監査等しっかりしてほしい。

具体的な活動計画、活動報告をもっと市民にアピールしてください(私が知らないだけかもしれませんが)。

漠然としてイマイチよく分からない。

市民公益活動はいいことだと思う。リタイヤした人でも有能な人が多いはず。手軽な感覚で参加できるようにしておくといいと思う。

性的少数者の自助活動に参加しています。和歌山市男女共生推進課には積極的なご協力を頂き、大変有難う存じます。他の部署のみなさまにももう少し興味を持って頂ければと願います。

移動図書館にも行き難い高齢者などに本の配達をしてはどうか？

公益活動を支援する制度の充実を希望します。弱者を支援することに熱心な和歌山であってほしい。

助成金のほか、活動し易い場所(会議室・駐車場など)の提供を増やすことをお願いしたい。

無知なため、それがどういうものか分かりません。子育て、介護、仕事で自分の時間もないため、何か新しく活動などをやる余裕はありません。

具体的な活動内容、参加方法などもっと広く知らしめてほしい。

公益活動はたくさんあるとは聞かすが、維持、活動を続けるにはお金が続かないとききます。市の対策も必要かと思えます。

ボランティア活動により、子どもの登下校がもっと安全に見守られれば嬉しいです。

言葉自体も聞いたことないので、もっと広めたほうが良いと思います。

高齢化と共に1人住まいの方が多くなり、近所付き合いが特に大切になる。先ずは顔を合わせ、話し合いの場所を近くに欲しい。コミュニティは遠すぎる。

そもそもNPOと言う団体自体が完全に活動がなされているのかが疑問。きちんとされている団体が少なすぎるしボランティアまがいが多いのできちんとした仕事として確立したものがあれば考えたい！

協働を司るのが大変だと思います。上手くリードして頂けないと次から協力させていただこうと思わなくなったという経験がありました。

意義は理解するし反対はしないが、イレこんでいるような人間にはなじめない。はっきり言えば嫌い。

現在、食生活改善推進協議会に所属している者です。国県市から降りてくる議題が増えているように思います。果たして、必要性があるのかどうか、下に申し送りしているだけなのでは？ボランティアだけに、経費かからないからというお考えはすて、吟味してほしいです。

もっと行政がアピールすべき。誰も知らない。

情報提供の方法がわかりにくいのでは？

よく分からない。PR不足かな？

ちまちました選択でなく協働したいという分野には、思い切ってサポートしてあげるべきではないでしょうか。

ボランティアの継続は次第に疲れる。

時間的制約から全面的に活動することはできないが、興味はあるので少しでも関わられるものがあればと思う。実際の活動内容がわかれば、活動を始めるきっかけになるかもしれない。活動時間や頻度、在宅でできる等が知りたい。

ボランティアには、許す限り積極的に参加しています。また、「市を元気にするアイデア募集」にも応募してみました。感じることは、市職員の方々の行動力・やる気・企画力のなさ・丸投げ等を感じています。若い職員の方々は直接接し、やる気・接客力等が改善していると思われます。しかし、昔からの慣例・しがらみが阻害要因ではないでしょうか？

安定した雇用があれば、人も待ちも活性化になると思う。

ここ最近、県内の他都市で魅力的な町が増えているように思います。その地域は何かの特化して町づくりを行ってのようにみえます。例えば 紀の川市のフルーツ博とか、有田川町の絵本マルシェ等のように子育てや教育を大事にしているところとか。和歌山市ではイベントがあっても、市民に周知されにくく、そんなのあったの？という感じで、活動も同じくどこでどんな事をしてきているのかなかなかわかりません。もっと型にはまらない市民を巻き込んだものをどんどん増やしていいのではと感じます。

誰でも気軽に参加できる環境が必要だと思います。各種会合等でも男性の参加が少ないので、もっと男性の活動施策を考えてほしいと思います。

ライフスタイルが多様化している現代で、自分の生きがいのために、市民公益活動に参加したいという人が、増えていると思われます。特に、仕事を退職した後でも、まだ活動できる能力、体力を持った人は、多くおられます。そのような方に、活動内容など、幅広く選択できる市民公益活動に関する情報を、身近に入手できる環境を整えることが大切だと思います。

子育てや学習支援などについて、何かお手伝いしたいと思っていても、毎週必ず参加しなくてはならないとか、呼ばれた時には出席しなくてはならないなど、縛りが厳しいものには参加できかねます。お手伝いできる人はお願いしますというようなアナウンスを市報等で募集して頂ければ、参加しやすくなると思います。

気軽に参加できるのであれば参加したいです。

将来を担う子どもたちの、健全な成長を手助けするのが大人の役割だと思っています。自分の子どもだけでなく、親戚や近所の子ども同士が屋外で遊び回れるような施設や公園が増えればいいなと思います。数もそうですが整備もされ安全に過ごせればと毎日思っています。

お忙しい中、アンケート調査にご協力いただきありがとうございました。

「協働」という言葉の認知度について、約2分の1以上の方が「知らない」と回答されており、アピール不足、広く浸透するように情報発信を、との多数のご意見をいただきました。

市報わかやま、ホームページ、ラジオ広報等による広報に加え、具体的な協働事業の事例を掲載した協働リーフレットを作成・配布し、より普及・啓発活動を実施します。

今後とも皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。